

また表3-6-3は、「地域内の安全確保の取り組み」の各変数と各種犯罪被害に対する不安感（町丁目単位の平均値）との関連（相関係数）を示したものである。「空き巣」と「忍び込み」に対する不安感については、「視線の通りにくい道路脇や樹木・植栽の管理」や「地域環境に対する自治体の働きかけ」を住民が十分と評価する地域で不安感が高いという傾向が見いだされる。一方、「ひったくり」「子供への声かけ」「ちかん」に対する不安感については、「地域内の安全確保の取り組み」を住民が不十分と評価する地域で不安感が高いという結果が示されている。具体的にいうと、「街の明るさ（街灯や防犯灯の明るさ）」が不十分とされる地域では、「ひったくり」と「子供への声かけ」に対する不安感が高く、「不審者の潜みやすい公園などの管理」が不十分とされる地域では、「ちかん」に対する不安感が高くなっている。また、「青少年の非行を防止するための環境浄化活動」が不十分とされる地域では、「ひったくり」と「ちかん」に対する不安感が高く、「地域住民の地域内のパトロール」が不十分とされる地域では、「ひったくり」に対する不安感が高くなっている。

表3-6-3 地域内の安全確保の取り組みと犯罪不安感との関連

	犯罪不安感				
	空き巣	忍び込み	ひったくり	子供への声かけ	ちかん
街の明るさ（街灯や防犯灯の明るさ）	0.03	-0.07	-0.21	-0.19	-0.06
視線の通りにくい道路脇の樹木・植栽の管理	0.18	0.24	-0.04	0.05	-0.08
不審者の潜みやすい公園などの管理	0.03	0.11	-0.11	0.07	-0.17
草むら、空き地の管理、廃屋の撤去	0.13	0.18	-0.03	0.14	-0.05
青少年の非行を防止するための環境浄化活動	0.06	0.09	-0.21	-0.06	-0.15
地域住民による地域内のパトロール	0.04	-0.06	-0.16	-0.01	-0.01
地域環境に対する自治体の働きかけ	0.18	0.15	-0.11	0.10	0.01

7 まとめ

本章では、町丁目単位で居住環境と治安状況との関連（相関係数）を分析した結果をみてきたが、その主要な結果をここでまとめることにしたい。

〔犯罪被害の自己報告および伝聞の結果〕

1) 空き巣などの侵入盗については、住民による日頃の安全確保の取り組みが幾分活発な地域で、被害の伝聞が多いという傾向がみられるが（防犯の取り組みを通じてより多く地域の犯罪被害について情報を得る可能性も示唆される）、「地域の無秩序」の結果をみる

と、地域の無秩序な状況が著しい地域で侵入盗被害の自己報告が多くなっている。すなわち、「少年が集団でたむろしてたばこを吸っている」「浮浪者らしい人」「路上のゴミ」「空き地のゴミ」「壊されたり、落書きされた公園のベンチや公衆電話」「わいせつな雑誌やビデオの自動販売機」「ツーショットカードの自動販売機」のそれぞれが多く見られる地域で、侵入盗被害の自己報告が多くなっている。

2) 家や敷地への無断侵入については、少年の問題行動に対する住民の働きかけが少なく、住民による日頃の安全確保の取り組み（外出時の近所への一声や防犯パトロール）が少なく、警察の情報提供が不十分とされる地域で、無断侵入の被害の自己報告あるいは伝聞が多くなっている。さらに、地域の無秩序な状況が著しい地域、すなわち「浮浪者らしい人」「壊されたり、落書きされた公園のベンチや公衆電話」「路上に乗り捨てられた自転車やバイク」「路上の人目に付くところに風俗店の立て看板」「わいせつな雑誌やビデオの自動販売機」のそれぞれが多く見られる地域で、無断侵入の被害の自己報告あるいは伝聞が多くなっている。

3) 車や壁が無法に壊されることについては、住民の地域への愛着などコミュニティ意識が低く、少年の喫煙に対して住民が無関心な地域で、バンダリズムの被害の自己報告あるいは伝聞が多いことが示されている。また、地域の無秩序な状況が著しい地域、すなわち「少年が集団でたむろしてたばこを吸っている」「空き地のゴミ」「壊されたり、落書きされた公園のベンチや公衆電話」「路上の人目に付くところに風俗店の立て看板」「わいせつな雑誌やビデオの自動販売機」「ツーショットカードの自動販売機」のそれぞれが多く見られる地域、さらに、警察の安全確保の取り組み（「警察官による地域内のパトロール」や「警察が住民の要望や意見を把握すること」）や地域内の安全確保の取り組み（「街の明るさ（街灯や防犯灯の明るさ）」「視線の通りにくい道路脇や樹木・植栽の管理」「草むら、空き地の管理、廃屋の撤去」「青少年の非行を防止するための環境浄化活動」「地域住民の地域内のパトロール」「地域環境に対する自治体の働きかけ」のそれぞれ）が不十分と評価される地域では、バンダリズムの被害の自己報告あるいは伝聞が多くなっている。

〔犯罪被害の認知件数（人口千人あたり）の結果〕

1) 侵入盗の認知件数については、コミュニティ意識でみると、地域への愛着が高く、住民間のまとまりが高い地域で認知件数が高い傾向が見られるが、より具体的な安全確保の取り組みでみると、「不審な人物を見つけたら、近所の人に注意を促す」ことが少ない地域で認知件数が多くなっている。より顕著な傾向としては、地域の無秩序な状況が著しい地域、すなわち「浮浪者らしい人」「夜間走り回る暴走族」「路上のゴミ」「空き地のゴミ」「壊されたり、落書きされた公園のベンチや公衆電話」「路上に乗り捨てられた自転車

やバイク」「路上の人目に付くところに風俗店の立て看板」「わいせつな雑誌やビデオの自動販売機」「ツーショットカードの自動販売機」のそれぞれが多く見られる地域で、侵入盗の認知件数が多くなっている。さらに、「不審者の潜みやすい公園の管理」が不十分と評価される地域で侵入盗の認知件数が多い傾向も見いだされる。

2) ひったくりの認知件数については、地域の無秩序な状況との間で正の関連は見出せないが、住民が日頃、地域の安全について話し合うことが少なく、「不審者の潜みやすい公園などの管理」や「草むらや空き地の管理、廃屋の撤去」が不十分と評価される地域で、ひったくりの認知件数が多くなっている。

[各種犯罪被害に対する不安感の結果]

1) 空き巣や忍び込みといった侵入盗に対する不安感については、住民の地域に対する愛着が低い地域で空き巣に対する不安感が高く、「浮浪者らしい人」を多く見かける地域で忍び込みに対する不安感が高いことが示されている。それ以外は、地域の無秩序な状況や安全確保の取り組みが不十分な状況が侵入盗に対する不安感を助長していると解釈できる結果は示されていない。

2) ひったくりに対する不安感については、住民の地域への愛着や少年問題への取り組みが少なく、日頃、住民同士が地域の安全について話し合うことが少ない地域において、ひったくりに対する不安感が高くなっている。また、地域の無秩序な状況が著しい地域、すなわち「路上のゴミ」「空き地のゴミ」「路上の人目に付くところに風俗店の立て看板」「わいせつな雑誌やビデオの自動販売機」のそれぞれが多く見られる地域、さらに、警察の安全確保の取り組み（「警察官による地域内のパトロール」）や地域内の安全確保の取り組み（「街の明るさ（街灯や防犯灯の明るさ）」「青少年の非行を防止するための環境浄化活動」「地域住民の地域内のパトロール」のそれぞれ）が不十分と評価される地域では、ひったくりに対する不安感が高くなっている。

3) 「子供への声かけ」や「ちかん」といった性犯罪に対する不安感については、地域の無秩序な状況が著しい地域、すなわち「浮浪者らしい人」「路上のゴミ」「路上に乗り捨てられた自転車やバイク」「路上の人目に付くところに風俗店の立て看板」「わいせつな雑誌やビデオの自動販売機」のそれぞれが多く見られる地域で不安感が高くなっている。さらに、警察の安全確保の取り組み（「警察官による地域内のパトロール」）や地域内の安全確保の取り組み（「街の明るさ（街灯や防犯灯の明るさ）」「不審者の潜みやすい公園の管理」「青少年の非行を防止するための環境浄化活動」のそれぞれ）が不十分と評価される地域では、「子供への声かけ」あるいは「ちかん」に対する不安感が高くなっている。

以上を総括すると、ごく一部矛盾する結果も見られるが、概ね、住民の地域問題に対する取り組みが少なく、潜在的に問題を起こしそうな人（不良化しそうな少年、浮浪者らしき人、暴走族）や有害環境（風俗店の立て看板やわいせつな雑誌やビデオの自動販売機など）に対する統制、ならびに街灯の明るさや公園等の管理が不十分な地域で、侵入盗、バンダリズムやひったくりの発生が多く、また犯罪（特にひったくりや性犯罪）に対する住民の不安感も高いことが明らかとなった。また、これらの結果は、単に相関係数の値を検討するだけでなく、関連する変数の空間的分布を図示することでより視覚的にわかりやすく検討できることも示された。